

現代社会に生きる私たちと西欧の歴史

—European history for today: What can we learn from the past?—

社会科教育・森 貴子

1. 講義の概要

21 年度後期金曜日 4 限の外国史 I は、二回生以上を対象に、上記タイトルで開講された。

(1) 講義の目的

本講義では、現代における様々な問題を、資本主義の生まれた西欧を場として歴史的・長期的観点から捉え直させ、今という時代がどんな時代であるのかという「歴史感覚」を身につけさせることを目的とした。また、中学校社会科や高校地歴の教員を目指す学生が多く受講するため、本講義を通じて、古代から近現代についての最低限必要とされる西洋史の知識を獲得させることも含意している。

具体的な目標としては、中世から近代の歴史を、人類の生活形態、社会経済様式などに注目しつつ概観させることで、現代社会を当然視せず、資本主義成立以前と以後で、生活がいかに変化し、そこにどのような問題が存在するか理解させることを目指した。

(2) 講義の詳細

授業は、基本的に、講義形式で行われた。『あなたが歴史と出会うとき』(堺 憲一著、名古屋大学出版会、1989 年)を主なテキストとしつつも、そこに独自の内容を織り込みながら中世農村から近代資本主義社会までを概観し、現代社会との関連で問題を整理した。学生に対しては、テキストについて、各回の授業で扱う範囲を事前に読み込み、自分なりの理解をしておくことを要求した。また、各回の内容に沿った史資料を可能な限り準備して、学生による考察を手助けすると同時に、より広範な知識を獲得させるように心がけた。

2. 授業評価の内容と結果

授業評価は、学生に無記名アンケートを実施し、その結果にコメントを付すことで行うこととした。受講登録者 43 人中、アンケート回答者は 39 名（社会科教育二回生 12 名／人間社会デザインコース二回生 12 名／教育学

二回生 5 名／情報教育コース三回生 2 名、四回生 2 名／保健体育二回生 1 名、三回生 1 名／スポーツキャリア開発コース二回生 1 名／造形芸術コース三回生 1 名／国語教育三回生 1 名／教育心理学二回生 1 名）であった。

◎ 問 1～9 は、次の五段階で評価してもらい、下表のような結果を得た。

<評価基準>

- 5 : 強くそう思う (非常に良い)
- 4 : ややそう思う (良い)
- 3 : どちらとも言えない (普通)
- 2 : あまりそう思わない (あまり良くない)
- 1 : 全くそう思わない (良くない)

<問い>

- 問 1 この授業への出席状況は
- 問 2 授業のテーマ・目的は、明確でしたか
- 問 3 担当教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか
- 問 4 担当教員は重要な点を適切に説明しましたか
- 問 5 板書は見やすかったですか
- 問 6 配付資料は有用でしたか
- 問 7 授業に対する教員の熱意・工夫が感じられましたか
- 問 8 授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか
- 問 9 授業によって考え方が培われたり、得るところがありましたか

評価	5	4	3	2	1
問 1	22	10	3	3	1
問 2	19	13	7	0	0
問 3	19	19	1	0	0
問 4	20	15	4	0	0
問 5	19	15	3	2	0
問 6	9	20	8	2	0
問 7	19	15	5	0	0
問 8	14	13	7	5	0
問 9	18	17	4	0	0

*問1～9に対するコメント

問2：大きな目的（資本主義への流れを把握する）は理解できていた

問3：スピードは適当である

問4：板書と補足でより深く理解できた／重要な点が強調されていた

問5：きれいで理解しやすかった／要点をしぼっているのだから後から見ても分かり易い／ノートがとりやすい／説明を聞きながらだともよく分かる／後で見返すと、ストーリーがつかめない（←出席率の低い学生からのコメント）／書き過ぎで手が疲れる

問6：カラーの資料が欲しかった／有効だった／TO マップなど、興味深い資料があった

問7：オリジナルの所や板書に工夫が感じられた

問8：目的が明確で分かりやすかった

問9：働くことに対する考え方が昔は否定的だったこと、考え方の変化によって資本主義が生まれたこと／近代と孤独感の関係が興味深かった／資本主義と宗教との関係

◎ 問10、11は記述式で解答を求めた。以下、紙幅の制約上、内容を整理して取り上げる。

問10 この授業で良かったと思う点、印象に残った点を挙げてください。

説明が詳しく分かりやすい／世界が変化していく様子を大まかに捉えることができたのでよかった／ビデオ・資料が分かりやすかった（複数回答）／資本主義について整理できた／復習のためにテキストが有効／高校ではあまり触れられない「中世農民の生活」がとても印象的だった／産業革命を中心に、世界的な規模で前後の事象をつなげて学習できた／世界史をとっていなかったがある程度は授業についていけた／ねらいを定めることで目的意識を持って学ぶことができた／教科書が分かりやすかったので、予習・復習で理解がさらに深まった／中世ヨーロッパの時代の流れを日本史と比較しながら理解できた／ほかの授業で教わったことが、この授業を通じてリンクするようになった／歴史的な岐路や分岐点について、さまざまな角度から理論づけて説明がなされたので、非常に理解しやすかった／外国史を経済と言う視点から見ることで

でき、新しい見方が広がった／テキストがとても面白い／歴史的つながりが見えたこと／知識が広がった／教員の声が大きく、分かりやすかった

問11 この授業で改善すべき点を自由に挙げてください。

板書が多すぎる（ペースが速く、居眠りしていたら消されていた。プリントにしたらどうか）←板書をもう少し書いてほしい／一部の資料が見つらなかった／テスト一発勝負は厳しすぎる／授業が長引くと5時間目に支障がある／もっとビデオが見たい／扱う範囲が広すぎる

3. コメント-授業の達成度・今後の課題-

学生の感想からも分かるように、近代社会の形成プロセスを追跡するという本講義の手法は、テーマを絞って目的を明確に押し出すという点で、分かりやすく、概ね好評を得たようだ。前近代と近代の違いを意識しながら歴史の流れをつかみ、同時に西洋史に関する基礎的知識を身につけてほしいという、本講義の所期の目的は、基本的には達成できたと感じられる。ビデオなどの補助資料も有効に機能したようだ（配布資料に関しては、コピー機の性能などを含めて問題が残るが）。教科書に関しても、講義内容とのリンクを常に強調し、予習・復習を呼びかけたことが功を奏したのか、かなりの学生が自主的に目を通し、結果として外国史に対する関心をさらに強めていたように感じた。

今後の課題としては、本講義で描き出した歴史プロセスに対し、学生が自らの視点・関心から新しい歴史イメージを構築できるように（少なくともその可能性について思い至るように）、揺さぶりをかけていくことが挙げられる。本講義で分かりやすく説明した歴史の流れは、特定の観点からみた一つの歴史イメージでしかなく、その「分かりやすさ」の背景には、捨象された多くの歴史的事実や解釈があること、自らの問いかけ次第ではさらに新しい歴史像を構築できる可能性があること、これらの点を自覚させ、担当者の説明を絶対視しないような姿勢を学生に身につけさせるにはどうしたらよいのか、この点が今後の重要な検討課題として残された。